下半身裸の女子の身体検査を記録する、男子保健委員の話

俺が中学2年生のときに保健委員になったのは、ラッキー以外の何物でもなかった。あの学校の変なルールで、保健委員は男子しかなれなかったんだ。そして俺と山田翔太が保健委員になった。女子の検査のときも、俺たちが保健室に残って、身長、体重、視力なんかをノートにメモする役目。マジで神みたいな特権だよ。

つまり、女子たちが脊柱側弯症検査で短パンとパンツを膝まで下ろして前屈みになるのを、すぐ横からガン

見できる立場。女子から距離が1メートルもない椅子に座って、お尻が丸出しになって割れ目までチラチラ見える状態の女子を堂々と観察できるなんて、興奮しないわけがない。俺のチンポは検査が始まる前から、期待でムズムズし始めてた。

検査の日、女子たちが保健室に入ってきた瞬間、俺の心臓がドクドク鳴り出した。翔太と目が合って、二人ともニヤニヤが止まらない。先生が「記録は田中くんと山田くんにお願いね。女子のみんな、順番にね」と淡々と指示を出して、検査がスタート。女子たちはみんな顔を赤らめて、モジモジしながら順番を待ってる。空気が張りつめて、女子の緊

張が伝わってくるのがまたたまらない。

最初に呼ばれたのは鈴木美咲。クラスで一番可愛くて、いつも笑顔がキュートな子。美咲が緊張で唇を噛みながら、短パンをゆっくり下ろした。白いパンツが露わになって、俺の息が荒くなった。次にパンツを膝までずらす瞬間、俺の目が釘付け。